

米子市地方創生有識者会議

委員提出資料

《平成27年8月6日提出分》

- 前田委員（日本政策金融公庫米子支店）資料・・・・・・・・・・1ページ
- 倉間委員（米子日吉津商工会）資料・・・・・・・・・・2ページ

米子市のまちづくり『サイクルシティ米子』構想について



日本政策金融公庫米子支店

節約と助け合いの精神が求められる人口減少時代において、「がいな米子」の創生を掲げる米子市のまちづくりについて提案します。

【まちづくりのテーマ】「サイクルシティ（自転車文化都市）の創造」

「生活コストの低いまち」というビジョンを掲げ、自転車の利用を促すための環境整備を行い、関連するビジネスを民主導で推進し、家庭における自動車の保有率を下げる。

人口減少に地方が対応するうえでの課題は、「低生活コストのまち」づくりです。生活コストで最も大きなものが自動車にかかるコストです。地方では、一世帯で複数の自動車を保有していることが家計の負担になっています。地方ゆえの生活コストを削減することは、米子市が生活充実都市を目指すうえで重要な課題です。自動車の利用率を下げる手段として、自転車の活用が考えられます。

米子市出身で、ノーベル経済学賞に最も近い日本人学者といわれた故宇沢弘文氏（東京大学名誉教授）は、環境問題に関心が強く、自動車を利用しない生活を実践されていました。宇沢氏の故郷である米子市が、自転車文化創造によるエコなまちづくりに取り組むということには説得力があります。

また米子市は、我が国のトライアスロン発祥の地であり、自転車との関わりはもとから深い。宇沢氏とトライアスロンの両面から、自転車文化都市というビジョンは全国に対してもアピールできます。

サイクルシティ（自転車文化都市）は低生活コストなコンパクトシティのあり方を表しており、働く場の創出、人口流入促進、子育て支援、広域連携への波及も期待できます。

【メリット】

- ①市内消費の活性化：年間 60 億円以上の生活コスト（自動車関連）が節約され市内消費へ
- ②コンパクトシティの実現：集約された効率の良い生活圏を創造
- ③エコ：環境への配慮
- ④健康：体力づくりや健康増進（「先端医療創造都市よなご」ともリンク）

【振興すべき自転車関連ビジネスの例】

トライアスロン学校、自転車メール便、ペロタクシー、自転車保険、貸駐輪場、中古自転車販売、レンタサイクル 等

【行政の関与】

①「サイクルシティ米子」「自転車文化で生活充実」というビジョンの提示、②自転車通勤、通学の推奨、③自転車関連ビジネスの創業支援、④駐輪場、自転車道などのインフラ整備、⑤バスなどの公共交通の整備・拡充

【市内消費の活性化により目指す先】

- ・ビューティタウン米子（ビューティビジネスの集積の形成。Onago de Yonaoshi）
- ・Show 都米子（公民館、コンベンションセンター等でのイベント PR）

【「がいな米子」の PR 方法】

- 「米子がいな戦略」
- ・等身大、「米子大」の発展を目指します（現状程度の規模が最適）。
 - ・大きな戦略で広域連携を目指します。
 - ・「米子がいーな」と呼ばれるよう目指します。

米子市地方創生に向けた取組みへ提案

「米子市地方創生総合戦略」として以下のとおり提案致します。

1. 創業支援センター設置

昨年度、創業者支援については産業競争力強化法に基づく創業支援事業を米子市が中心となり西部地区の市町村で共同申請し認定を受け創業予定者に対する相談体制は出来ているところではあります。これまでも相談者からどこに相談したらよいかわからなかったという声を聞きます。そこで、創業支援に特化した相談窓口として以下の業務を行うことを目的とした鳥取県内、市町村初の仮称「米子市創業支援センター」の設置を提案します。

主な役割

- ・ 創業に関する窓口相談。
 - ①関係機関との連携（商品開発、資金調達、ビジネスプラン作成など）
 - ②米子市内の事業所とのマッチング支援（仕入先、販売先など）
 - ③事業承継者と創業予定者とのマッチング支援
 - ④米子市内の空き店舗の紹介
 - ⑤市、県が主催するU I J ターン説明会において米子市での創業者支援をPR
 - ⑥創業者へのフォローアップ支援

1-2. 創業者支援施策

創業予定者から相談の多くが自己資金不足により融資や国等の補助金を活用し開業されるケースが多い。国・県などの補助金、融資制度が充実してはいますが、米子市での創業者を更に増やしていくには、米子市独自の創業者支援施策を創設することで、米子市の人口及び雇用増加や地域産業活性化に繋げることが可能だと考えます。

創業者に対して支援施策の創設

例として

- ①米子市へ移住定住し米子市で事業を行う創業者
- ②米子市の地域資源を活用し商品開発、販路開拓事業を行う創業者
 - ・ 住民税1年間減免
 - ・ 設備補助、空き店舗入居家賃補助
 - ・ 国・県創業補助金の自己負担部分2分1補助
 - ・ 商品開発、販路開拓費に伴う経費補助
 - ・ 雇用助成

2. インバウンドを含む交流人口対策

近年、山陰地方では石見銀山の世界遺産登録、出雲大社の遷宮、松江城の国宝や山陰海岸世界ジオパーク認定などで、全国から注目を集め観光客などの交流人口が増えています。

また、境港には海外から大型客船の就航が増えており、停船時には大山や足立美術館の周辺観光地や大型ショッピングセンターなどへツアーが組まれています。そういった中で山陰の中心に位置する米子市は通過点になっており折角のチャンスを逃し米子市の交流人口が低下してしまっているような気がします。今後、米子市の交流人口を増加させるために、例として以下のような取組みを提案します。

①大型観光客船対応

- ・市内社会科見学ツアー（お菓子の壽城など見学可能な工場）
- ・ゆったり皆生温泉で味わう山陰の味満喫ツアー

②米子市に「道の駅」の設置

山陰道が整備されている中で、市内を通らないで米子市を通過し松江、出雲や鳥取市を目的とした自動車が増えてきている。観光誘客や産業振興面を含めた経済の活性化策として、山陰道沿いに「道の駅」を設置し特産品販売、観光PRを行う。

・米子市特産品の販売及びPR

米子市は「ふるさと納税制度」で特産品の良さからマスコミなどの効果があり全国から脚光を浴びるようになってきている。

「道の駅」で米子・淀江漁協の朝どれ魚介類、地元農家の朝どれ野菜など新鮮な農水産物や米子市特産品、銘品を販売し地域産業の活性化に繋げる。

③米子市観光PR

米子市内には弓ヶ浜、市街地、淀江町をエリアとした地域にはいろいろな観光名所、施設がありますが、残念ながら米子市には県内外から多く集客できるような核となる観光名所、施設がないのが現状ではないでしょうか。新規に集客力のある観光名所、施設をつくることは難しいことなので、中海・大山圏域で連携し趣向や世代に合わせた体験型観光開発が必要。

3. 健康増進と温泉のまち米子市

米子市には皆生温泉があり市内には大学病院をはじめとする総合病院が数多くあります。鳥取大学や市内の病院と皆生温泉が連携した人間ドックなど「健康増進と心を癒すまちよなご」としてのまちづくりを提案します。

- ・地元食材を使った薬膳料理と人間ドックセットプランなど
- ・利用者に米子市特産品購入券プレゼント、「また来てごしない皆生温泉がいな宿泊割引券」などの特典